育てよう 鏡野のよい子シリーズ

感謝の気持ちを伝えて

昨年の四月、私は六年生を担任することになり、「六年生と言えば最高学年。小学校生活の集大成としてどんなことができるだろう」と考えていました。

そして、子どもたちと出会い、話し合いを重ねていく中で、周りの人たちのために働き、感謝されるような活動に一年間取り組んでいくことになりました。その取り組みを「感謝チャンス」と題しました。行事の役割を全うしたり、下学年の教室へ重い本を運んだり、タブレットの使用の仕方を一年生に教えに行ったり、下学年に勉強を教えたり、小さなことから大きなことまでたゆまず励みました。

すると、そのたびに、

「ありがとうございました」

と、相手の子や学年から言葉をかけられ、照れくさそうに喜ぶ六年生の姿がありました。六年生のみんなの心の中に人のためになる喜びが広がり、「やってよかった」という充実感が浸透する時を何度も見ることができました。子どもたちは確かに他学年のために役立つような行動をしていました。しかし、その活動を通して周りへの感謝も感じていたのではないかと思います。最高学年としての働きを通じて、今までの六年生へのありがたさを感じ、下学年が「あこがれ」のまなざしで自分たちを見てくれていることへの感謝を感じることができました。

そのような活動に継続して取り組み、そして迎えた三学期。いよいよ小学校生活最後の学期です。今度は自分たちがこれまでの小学校生活の歩みをふり返り、周囲への感謝を伝える「卒業プロジェクト」に挑戦することにしました。「どうやって感謝を伝えられるだろう」と子どもたちに問いかけると、「他学年に手紙で伝える」「先生方にスライドショーを作る」「桜の木のメッセージボードを作る」など、子どもたちはこれまでの経験と知恵を生かし、様々なアイデアを出しました。その中で、一つのグループからこのような提案が出ました。

「地域の方々に感謝を伝えるために町内に放送を流したい。」

素晴らしい提案だと私たちも賛成し、鏡野町役場の方々の協力もいただき、その願いを実現することができました。放送当日、緊張とたくましさを含んだ表情で子どもたちは放送に臨みました。そして、放送後、学校へ電話がかかってきました。

「放送を聞きました。嬉しくて涙が出ました。」

地域の方からのあたたかい電話でした。

私は、この取り組みから学んだことがあります。それは、子どもたちのもつ素晴らしい力です。子どもたちには周りの人へ感謝を伝えたり、挨拶をしたり、笑顔を見せたりすることで周囲の人や地域を元気にし、勇気を与えられる力があると強く感じました。

「人と人とのつながりを大切にし、感謝の気持ちをもって接する」私もその気持ちで子どもたちに接し、子どもたちがそれを実現できる場を引き続きつくっていけたらと思います。

鏡野町生徒指導推進連絡協議会
南小学校　松永　啓志

のびのびひろば

こいのぼりと風に揺られていいきもち♪

どんなこいのぼりができるかな？

ぼくがこいのぼりになったよ！

「やねよーりたーかーい　こいのーぼーりー♪」今日も子どもたちの元気な歌声が聞こえてきます。5月5日はこどもの日。こども園では、子どもたちの健やかな成長を願ってこいのぼりをあげることを伝え、絵本を読んだり、こいのぼりくぐりをしたりしました。また、年齢に合わせて廃材や玩具でスタンプをしたり、折り紙を切って貼ったりして個性豊かなこいのぼりができあがりました。

園庭に出ると「わー！泳いだー！」と、空に届けと言わんばかりにめいっぱい手をのばし、こいのぼりさんと一緒に走り回る子どもたちでした。

風吹いて～

泳いだー!!

こいのぼりのようにたくましく育ってね

こいのぼりのトンネルくぐったよ!

（芳野こども園）